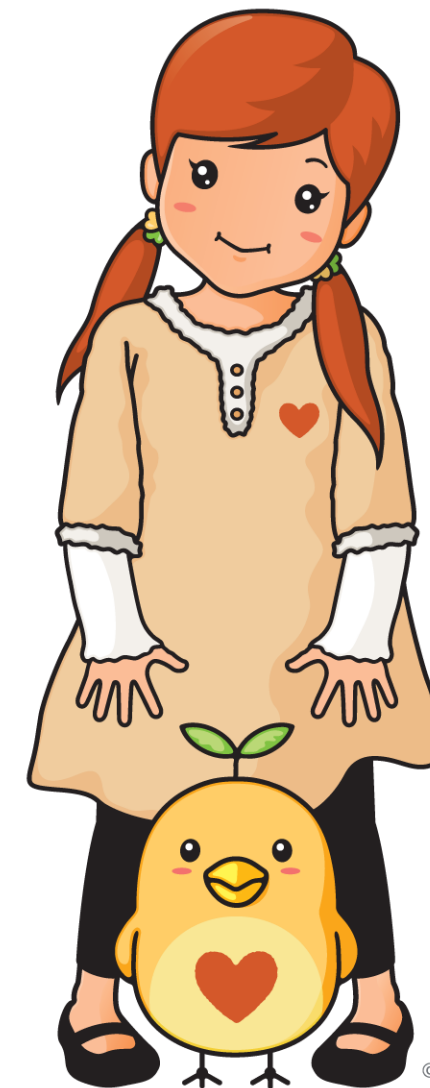


タッチすることは、ハッピーになること。



©2008 sasao

"ハッピータッチ" は
認知症予防対策の一環
として、社団法人企業福祉・
共済総合研究所と当社が
共同開発したものです。

商品の取り扱い方法・その他のお問い合わせは
製造元・発売元

株式会社 **ササオ** ヴィジュアルクリエイション営業部 〒110・0014 東京都台東区北上野 2・3・4

TEL. **03・3843・4611** FAX. **03・3843・4646**

タッチパネルソフトについて詳しくは、www.sasao.co.jp をご覧ください。

推薦

RIEBE 社団法人企業福祉・共済総合研究所 (旧名称: 社団法人産業労働研究所)

〒105・0012 東京都港区芝大門 2・11・4 共生ビル別館 6 階

TEL. **03・5776・1421** FAX. **03・5776・1423**

ハッピータッチ®

happytouch®
communication that brings you delight

コミュニケーションを楽しむ、その真ん中に。

認知症予防を主眼としたソフトに、高齢者にも使いやすいタッチパネルを組み合わせました。
かんたんに使えて、みんなで楽しめる。ササオが考える、コミュニケーションの新しい形です。

利用者の毎日をもっと楽しく



「笑うこと」「指を動かすこと」は認知症の予防につながると言われています。指を使って操作するタッチパネルと、記憶力や動体視力等、脳の活性化を意識したソフト。タッチパネル搭載の“ハッピータッチ”なら気軽に楽しめます。

介護者も元気に



“ハッピータッチ”の操作はいたってシンプル。利用者自身が能動的に使える事により、レクレーション等、業務負荷の軽減も期待できます。“ハッピータッチ”は業務効率の改善等、“介護者も元気”な環境づくりに役立ちます。

コミュニケーションという付加価値



利用者が過ごす毎日に、「娯楽」「設備」はとても重要です。“ハッピータッチ”を中心に生まれるコミュニケーションは、「施設内の環境づくり」においてもメリットがあります。

"ハッピータッチ"は認知症予防対策の一環として、社団法人企業福祉・共済総合研究所と当社が共同開発したものです。



※画面はイメージです。※仕様および外観は予告なく変更する場合があります。
※当製品は、認知症予防を目的としたものですが、治療や完全予防を保障するものではありません。
※長時間の連続使用は、目の疲労などを生じる場合がございます。また、その他身体に異常を感じたら、直ちに使用を中止して下さい。

“ハッピータッチ”はソフトも充実。追加ソフトもリリース。

ソフトは全部で7種。認知症予防を主眼に、さまざまな仕掛けを組み込みました。
今後、追加ソフトも定期的にリリースしていきます。



誰でも気軽に。難易度調整が可能。

利用者のレベルに合わせて“ハッピータッチ”は「初級」「中級」「上級」とレベルを選択できます。

季節の変化、時間の経過を表現。

画面に表示されるイラストや背景等が季節や時間に合わせて変化します。
「今がいつなのか」を意識する事は、認知症の予防につながると言われています。

〈季節〉



〈時間〉



※変化する内容はソフト毎に異なります。

医学博士による監修

75歳を過ぎると認知症の発生率は急激に上昇するため、高齢者入居施設では、認知症を進行させない工夫が、高齢者ご本人やご家族にとってはもとより、介護施設スタッフにとっても切望されています。認知症予防の集団療法活動などの取り組みも重要ですが、スタッフの多大な労力負担を要します。

一般的に高齢者の認知症は、見当識障害、記憶障害および認知障害（失行・失認・失語など）が「中核症状」を形成し、次第に進行していきます。認知症の根本的治療はまだ発展途上ですが、基本的には脳動脈硬化の進行予防と、脳に対する適切な刺激が必要です。「ハッピータッチ」のタッチパネルゲームを利用すると、楽しみながら脳に適切な刺激を与えることができます。登場するキャラクターは優しく微笑み

かけて暖かいぬくもりを漂わせ、パソコンという電子機械に慣れない高齢者の方でもリラックスしてゲームに参加していただけます。認知症の見当識障害は、時間の見当識の低下から始まることが多く、逆に時間の見当識を意識する訓練の継続で、見当識障害予防に繋がります。ハッピータッチの画面は、昼夜の区別、季節感などが現実と同様に変化し、絶えず時間感覚を意識させるので時間見当識を賦活することができます。また、認知症では短期記憶の障害が目立ちますが、ハッピータッチのゲームを楽しむことで短期記憶が強化され、記憶力障害の向上に役立ちます。ハッピータッチでは、視覚・聴覚・触覚・眼球運動・手指の関節運動などを同時に活動させるゲームが盛り込まれ、右脳も左脳も刺激する工夫がなされています。

私がハッピータッチを強くお勧めする理由は更に以下の2点あります。一つは、つつい自室に引きこもりがちのご高齢者が、画面の前に集まってゲームを賑やかに楽しむことで、参加者同士の人間的つながりが出来る事が期待できる点です。二つめは、ハッピータッチの利用で、集団療法などに要する介護スタッフの労力が一時的であれ軽減されることも大きな利点です。今後、ハッピータッチを囲んで施設内が明るい笑い声で盛り上がる姿が全国で見られようになると思います。

R. Taira

あずさわ 小豆沢整形外科 院長 医学博士
たいら 平 竜三氏
りゅう そう

1994年、東北大学医学部卒業。
2002年、東北大学医学系大学院卒業。
宮城県内の総合病院勤務などを経て、2004年、池袋にてインターシティークリニック開業。
2005年8月、小豆沢整形外科開業。
日本整形外科学会・日本手の外科学会・日本リハビリテーション学会会員。
日本医師会認定産業医。
専門分野は、整形外科、形成外科、麻酔科、リハビリテーション医学、義肢装具学、漢方・中医学、産業医学、予防医学。
その他、義肢・医療機械・リハビリ機器の研究開発にも取り組んでいる。



小豆沢整形外科ホームページ
www.azusawaseikei.com